

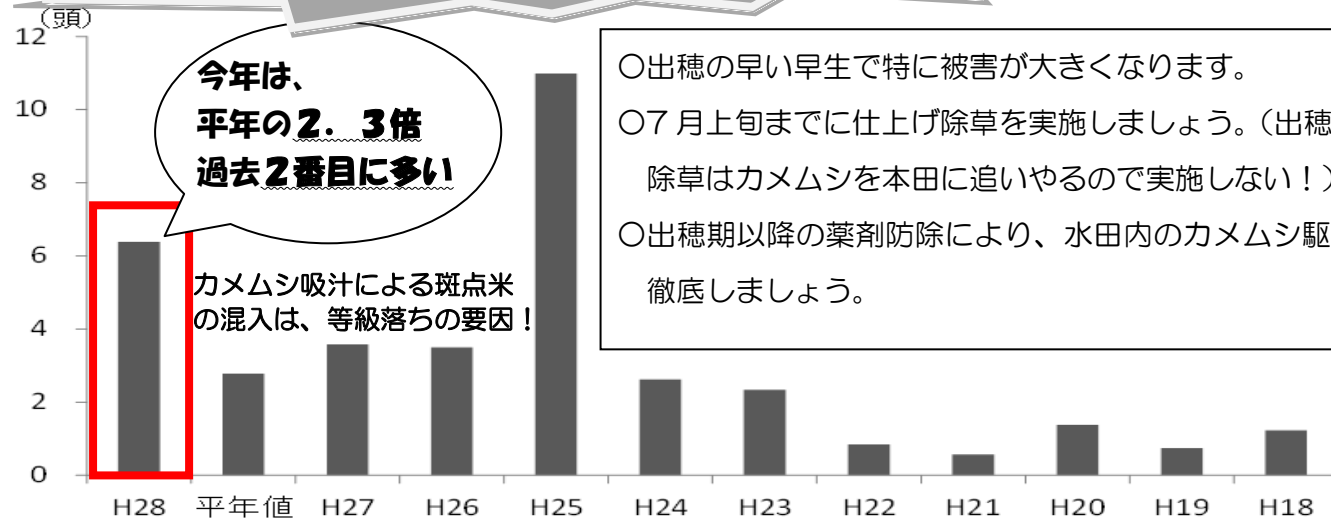
H28農事メモ(第5号)

平成28年7月1日
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済組合
松任市農業協同組合

白山石川グレードアップ米づくり運動実施中

飽水管理は『中干し後～出穂の1ヵ月』『出穂～刈取直前の1ヵ月以上』

斑点米カメムシ多発！除草・防除は必ず実施！



水稲の生育状況

連休までに田植えされた圃場では、茎数は平年と比べて、ゆめみづほは長く、コシヒカリは平年並となっています。茎数はゆめみづほ、コシヒカリともに平年並です。出穂はゆめみづほで平年より3日早い7月16日頃、コシヒカリで平年より4日早い7月28日頃の見込です。また、今後の気象は7月8月ともに、気温は平年並～高い予想です。水稲の生育に応じて追加穂肥を実施しましょう(詳しくは裏ページ参照)

【出穂期の見込み(5月連休までの田植え、6月28日調査)】

品 種 名	出 穂 期	減数分裂期 (出穂15～5日前)	主稈幼穂形成期 (出穂25日前)
コシヒカリ	7月28日頃	7月13～23日頃	7月 3日頃

《生育に応じた今後の対応方針》

	生育が早い、旺盛な場合	生育が遅い、虚弱な場合
幼穂形成期	草丈が長く葉色濃い場合は、穂肥を遅らせ減肥する。追加穂肥は施用しない。	生育が遅れているため、穂肥や基幹防除が早めとならないよう注意する。追加穂肥を実施する。
登熟期	刈り遅れないようにする。	早刈りにならないようにする。

当面の栽培管理

1 病害虫防除(基幹防除)

(1) ゆめみづほ

体系	散布時期	対象病害虫	薬 剤 名	使用量 10a 当たり	散布時期の目安	本剤の 使用回数	注 意 事 項
微粒剤 防除※1	1回目	いもち病、カメムシ類 紋枯病	ザジェスト微粒剤F	3 kg	7月21～25日	3回以内	使用時期： 収穫21日前まで
	2回目	いもち病、ウンカ類 カメムシ類	ビームクリア微粒剤F	3 kg	7月28日～ 8日1日	3回以内	使用時期： 収穫7日前まで
粉剤 防除	1回目	いもち病、カメムシ類 紋枯病	ビームモンセレンスター クリア剤DL	4 kg	7月21～25日	3回以内	使用時期： 収穫21日前まで
	2回目	いもち病、ウンカ類 カメムシ類	ビームクリア ジョーカー粉剤DL	4 kg	7月28日～ 8日1日	2回以内	使用時期： 収穫14日前まで
粒剤 防除※2	1回目	いもち病、カメムシ類 紋枯病	イモチエース クリア剤	3 kg	7月7～11日	1回	使用時期： 収穫35日前まで
	2回目	カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークリア剤	3 kg	7月22～26日	3回以内	使用時期： 収穫7日前まで
液剤 防除	1回目	いもち病、カメムシ類 紋枯病	ビームイトレボソール +モンセレンフロアブル	-	7月21～25日	-	使用時期： 収穫21日前まで
	2回目	いもち病、ウンカ類 カメムシ類	ビームイト スタークリア	60～150L (1000倍)	7月28日～ 8日1日	3回以内	使用時期： 収穫7日前まで

ゆめみづほの基幹防除について

・カメムシ防除に重点を置いた散布時期となっているため、営農のてびき記載の時期と異なります。
・紋枯病はこの体系による防除が難しいので、常発地や既に発生している場合は、出穂10日前までにモンガリット粒剤(3kg/10a)を散布しましょう。

(2) コシヒカリ

体系	散布時期	対象病害虫	薬 剤 名	使用量 10a 当たり	散布時期の目安	本剤の 使用回数	注 意 事 項
微粒剤 防除※1	1回目	いもち病、カメムシ類 紋枯病	ザジェスト微粒剤F	3 kg	7月26～30日	3回以内	使用時期： 収穫21日前まで
	2回目	いもち病、ウンカ類 カメムシ類	ビームクリア微粒剤F	3 kg	8月2～6日	3回以内	使用時期： 収穫7日前まで
粉剤 防除	1回目	いもち病、カメムシ類 紋枯病	ビームモンセレンスター クリア剤DL	4 kg	7月26～30日	3回以内	使用時期： 収穫21日前まで
	2回目	いもち病、ウンカ類 カメムシ類	ビームクリア ジョーカー粉剤DL	4 kg	8月2～6日	2回以内	使用時期： 収穫14日前まで
粒剤 防除※2	1回目	いもち病、カメムシ類 紋枯病	イモチエース クリア剤	3 kg	7月19～23日	1回	使用時期： 収穫35日前まで
	2回目	カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークリア剤	3 kg	8月3～7日	3回以内	使用時期： 収穫7日前まで
液剤 防除	1回目	いもち病、カメムシ類 紋枯病	ビームイトレボソール +モンセレンフロアブル	-	7月26～30日	-	使用時期： 収穫21日前まで
	2回目	いもち病、ウンカ類 カメムシ類	ビームイト スタークリア	60～150L (1000倍)	8月2～6日	3回以内	使用時期： 収穫7日前まで

※1 微粒剤散布には専用のホースが必要です。田面に水を張る必要はありません。
※2 粒剤は、1回目の散布では水深3～5cm程度で散布7日間は湛水状態を保つ。2回目の散布では水深3cm程度で散布4～5日間は湛水状態を保つ

2 病害虫防除(随時防除)

常発地や昨年発生が見られた地域は田まわりを徹底しましょう。

○稲こうじ病 ※穂ばらみから出穂にかけて雨が多く、低温・日照不足で発生が多くなる。

薬 剤 名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注 意 事 項
モンガリット粒剤	3～4 kg	出穂2～ 3週間前	2回以内	水深3cm程度で散布4～5日間は湛水を保つ。
撒粉剤(レドール)粉剤DL	3 kg	出穂10～ 14日前	-	穂に付着すると薬害を生じるので、必ず出穂10日前までに散布する。

6・7・8月は農薬危害防止運動期間です。農薬を安全で適正に使用し、その保管管理を徹底することは、農業生産の安定だけでなく、生産者の健康や生活環境の保全の観点からも重要です。

3 肥培管理

(1) コシヒカリの穂肥 ※幼穂長を確認し稲の姿に応じて的確に施用すること。

◎施用基準（分施体系）

施用時期 (幼穂長)	BB有機入松任穂波		葉色
	時期の目安	施用量(kg/10a)	
出穂18日前 (10~15mm)	7月9~11日	30	3.5

- ・葉色が基準程度で葉身は直立・・・基準どおり施用。
- ・葉色がやや濃い葉身は直立・・・基準より5日遅らせる。
- ・葉色が濃く葉身の乱れが目立つ・・・基準より（1回目を）5日遅らせ、2割減肥。

(2) ゆめみづほの追加穂肥

3ヶ月予報（6月24日発表）において、7月、8月は気温が平年並～高いことが予想されることから、高温登熟になることが見込まれます。出穂前の葉色が薄い場合は、基肥一発肥料であっても出穂7日前頃に追加穂肥を施用し、高温登熟による白未熟粒発生を防ぎましょう。

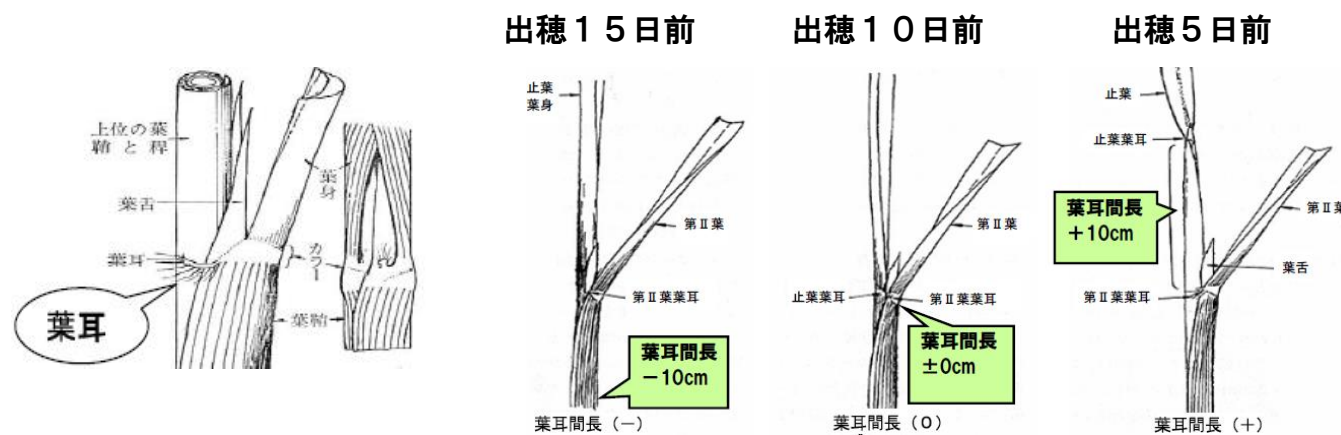
追加穂肥は、**増収効果も期待**できます！

BB 有機入松任穂波 7~8kg/10aを7月8~10日（出穂7日前）を目安に施用

※昨年までの経過（秋落ち、大豆跡による基肥減肥など）や今後の登熟期間の気象を踏まえて、実施を判断する。

※コシヒカリの追加穂肥については、7月中旬頃に発行する特報でお知らせします。

◎葉耳間長による出穂前日数の推定方法



4 倒伏軽減剤

薬剤名	使用量 10a 当たり	使用適期	本剤の 使用回数	注意事項
スマレクト粒剤	2~3kg	出穂15~10日前	1回	湛水状態で播きムラのないように均一に散布し、散布後5日間は湛水状態を保つ。散布後7日間は強制的に落水しない。
ビビフル粉剤DL	3~4kg	出穂10~5日前	1回	播きムラや重複散布に気をつける。降雨直後や降雨が予想される場合は散布しない。

5 水管理 ~飽水管理の徹底~

中干し終了後は間断通水を実施し、徐々に飽水管理へ移行しましょう。急激な湛水は、根の酸素不足による根腐れや下位葉の枯れ上がりを生じさせるので、行わないでください。

飽水管理は登熟の後期まで実施し、稲体の活力維持に努めましょう。



※高温が続く場合は、夜間通水により地温を下げるよう努めましょう。

※強風やフェーンが予想される場合、急激な蒸散による高温障害等の発生を防止するため、あらかじめ十分に入水しておきましょう。

※早すぎる落水はイネの根の状態を早く弱め、米の収量や品質を低下させます。

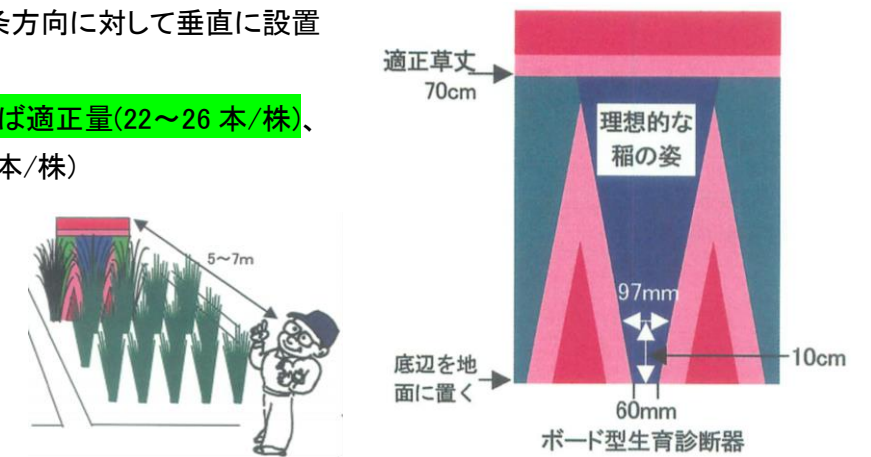
コシヒカリ生育診断ボードの紹介



- ・コシヒカリの穂肥量を判断する参考となります。
- ・コシヒカリの幼穂形成期の草姿について診断します。
- ・詳しくはJAにお問い合わせ下さい。

使用方法

- ① 畦から5m以上圃場内に入り、条方向に対して垂直に設置
- ② 三角と三角の間に稲株をあてる
- ③ 畦から見て**大きい三角が見えれば適正量(22~26本/株)**、見えなければ生育過剰(27~31本/株)
- ④ 小さい三角が見えない場合は著しい過繁茂(32本/株以上)



作業のポイントのチェック！！

- 追肥は適期に適量を施用しましたか（分施体系）。 □ 基幹防除は実施しましたか。
- 稲の生育を確認し追加穂肥を実施しましたか。 □ 飽水管理等の適正な水管理を実施しましたか。

7・8月は熱中症予防に努めましょう！！（予防方法の例）

帽子をかぶる、涼しい服装にする、こまめに休憩する、こまめに水分・塩分を補給する。